

特定非営利活動法人 難民を助ける会
平成24年度海外駐在員会議 実施報告

1. 実施期間 平成24年8月4日～6日
2. 実施場所 特定非営利活動法人 難民を助ける会 東京事務局会議スペース
3. 会議の概要と成果

(1) 会議概要

今次会議では、昨年度の海外駐在員会議で検討すべき議題として挙げた、緊急時の行動規範や安全対策マニュアルの整備を具体的に進めると共に、応急処置ワークショップやストレスマネジメントに関する研修を行った。安全管理の重要性についての認識を深め、事業の質向上に向けた取り組みを強化する目的で、海外事務所からは駐在代表者、東北各事務所からは代表1名、東京事務局勤務の職員全員が参加する形で開催したものである。会議は3日間にわたって行われ、最重要課題であった緊急災害発生時における事業継続計画に関する意見交換を始め、外部講師を招いての職場内でのストレスマネジメント講習、緊急支援に関するロールプレイなど、より実践的で幅広い分野での意見交換を行った。また昨年度からの課題である安全対策マニュアルの整備や海外事務所の運営管理といった項目のフォローアップ作業に関しては、それぞれを担当したタスクフォースチームから成果が発表された。



(2) 成果

今次会議を開催した結果、以下のような成果を得ることができた。

① 緊急災害発生時の事業継続計画

首都圏大規模災害が発災し、東京の事務所が損傷・倒壊などで使用不可と判断された場合、又は東京の幹部職員が直ちに職務復帰することが困難と判断した場合は、暫定事務局体制が始動されることが決定され、臨時理事長代行・臨時事務局長代行の設置と暫定事務局体制の業務を決定した。暫定事務局は、全事務所に対し事業の一時停止を正式に指示し、スタッフの安否情報確認や緊急オペレーションに関する連絡の拠点となる。また海外派遣駐在員の緊急一時帰国など事業の方向性を状況に応じ別途指示する。今後の課題としては、詳細を定めたガイドラインの作成と災害体制強化対策の検討、団体としての事業維持能力強化などが挙げた。

② ストレスマネジメントに関する講義

産業カウンセラーである外部講師を招いての講義を行い、ストレスマネジメントと職場でのコミュニケーションに関してワークショップ形式で議論を進めた。

講義では、講師自身の経験に基づく具体的なエピソードを交え、ストレスの種類の理解やストレスとの付き合い方などを学べる研修内容となった。また職場でのコミュニケーションに関してはケーススタディ方式により、各自が改めて自身のコミュニケーションの取り方を見つめ直す機会を持つことができ、職場でのハラスメント防止におけるコミュニケーションの重要性を、より明確に理解することができた。

③ 応急処置のワークショップの開催／緊急支援ロールプレイ

看護師資格のある職員による応急処置の基本やAEDの使用法などのワークショップが開催された。基本的な内容について、実技を交えながらの非常に分かりやすい実践方式で行われ、参加者から非常に高い評価を受けた。また緊急支援のロールプレイでは、小グループに分かれてシミュレーションできたことで、迅速な初動の重要性や支援実施の流れが理解できた。



④ 昨年度の議題のフォローアップと最新状況の共有

安全マニュアルの整備や海外事務所の運営方法といったフォローアップ作業に関しては改めて活発な議論が行われ、新たに検討すべき課題も浮かび上がってきた。グループディスカッションも多く行われたことにより、普段は連絡を取ることのない職員同士が日常業務における問題点を話し合えたのは大きな成果であった。

昨年度は3月11日の東日本大震災により人員も、集まった寄付金もかつてない規模に増え、当会としては節目の年であった。今年度は開催にあたり理事長からNGOで働くことの意義や、職員としての倫理観に関する講話があり、改めて当会の現



在置かれている状況について、各人が考え直す機会となり、安全対策関連事項のみならず当会事業実施に係る基本方針を再確認し、認識を深めることができた。また今後検討すべき課題に関しては海外派遣駐在員と東京事務局とで分担しフォローアップ作業を継続させることが確認された。